



会員28名が各地で防災訓練に参加



防災週間の9月2日(日)、県下各地で防災訓練が行なわれ、事業部や各地域の会員ら総勢28名が、秋まだ遠き暑さのなかで担架搬送や応急救護指導などに参加した。本会と愛知県や名古屋市、岡崎市との防災協定に基づき、関係者がそれぞれの総合防災訓練に参加し、天白区では従来の関係のなかで支部会員が活躍した。

■ 愛知県・豊田市総合防災訓練

↓大村県知事・太田市長を囲んで

午前7時30分、豊田市八幡町元城小学校に柳田副会長のほか、岡崎支部から堀孝利・石川英一郎・石川雅彦・永田重雄、本会事業部員3名及び無線担当として田島正博・石黒貴彦の10名の会員が集合。副会長からの挨拶・最終打ち合わせ後、メイン会場の白浜会場と元城会場に分かれて準備開始。



白浜会場では応急救護所において日赤・消防と協力しながら、トリアージされた模擬負傷者約70名を担架搬送する訓練に携わり、医療スタッフの一員としての役目を果たした。

元城小学校ではグラウンドに応急救護テントを設営し、9時25分から10時20分まで、地域住民や消防団員ら約60名に家庭内にあるものを使って応急救護処置訓練を実施。

最後に参加64団体総勢約2,000人が整列し、大村秀章愛知県知事・太田稔彦豊田市長から挨拶を受け解散となった。

(報告 事業部長 小林弘治)

■ 岡崎市細川学区防災訓練

岡崎市立細川小学校校庭にて平成24年度の訓練が実施され、岡崎支部から寛芳幸・大竹康範・伴力・中村政幸・秋吉良・菅沼秀生の6会員が参加。学区一般参加者を対象に被災者の応急処置実技講習を行った。講習内容は身近にある「買い物ビニール袋」を使った上肢を吊る処置や新聞紙や雑誌を用いた固定法を指導し、実際に参加者に実技を行ってもらった。



日頃の業務での知識経験の話をもじえて講習を行ない、途中参加者からの質問も多々あったが、最後まで興味深く聴いてもらう事ができた。今回地域貢献ならびに本会が被災時や災害に備え担う役割を確認でき、有意義な参加となった。(報告 岡崎支部広報担当 菅沼秀生)

(^^) 翔・新会員 (^^)

| 氏名 | 生年月日 | 支部 | 出身校 | 段位 | 趣味 |
|------|----------|-----|------|----|------|
| 太郎良卓 | S60.11.1 | 大曽根 | 大分医学 | — | スポーツ |

■ なごや市民総ぐるみ防災訓練



名古屋市の防災訓練は、東海地震発生を想定して全市一斉に開催された。

北区は今年、幹事区(特に大がかりに訓練をする行政区)として、北陵中学校を災害対策本部とし、消防、警察、陸上自衛隊・医療・ボランティア等

32団体が参加し、住民参加の初期消火や応急手当の訓練、救助・救出活動を行った。市バスや消防車両などを使用して避難所(北陵中学校)への搬送も行われた。到着後は、待機している赤十字のスタッフがトリアージをし、応急手当などをして避難所へ運ぶといった実践的な活動と、ヘリコプターを使った重症患者の搬送も行なわれた。

今年度は県・豊田市、岡崎市と同日開催であったことから、北区は大曽根支部が担当した。北保健所、日本赤十字、消防団とともに応急手当訓練に参加。濱巧支部長を班長とし、森川伸治、船橋裕計、押谷昌之、梅野寛亨、横井達典の6名が、午前8時30分から11時35分まで、応急テント内で訓練参加区民に対して三角巾を使用した下腿部の応急手当訓練(住民への指導)と区民主体応急手当実践訓練のサポートを行った。(報告 大曽根支部広報担当 横井達典)



なごや市民総ぐるみ防災訓練のもうひとつの幹事区である瑞穂区からは、本会に来賓としての参加要請があり、代表として竹上勝笠寺支部長が、訓練が行われた御劔小学校グラウンドへ赴いた。

■ 天白区植田地区防災訓練

午前8時30分から11時15分まで、地域女性団体連絡協議会・名古屋市医師会天白支部・天白消防署・天白警察署など12機関が植田小学校グラウンドに集まり訓練が行なわれた。本会鶴舞支部から伊藤勇造・山本篤・松浦洋雅・丸谷康男の4人が参加した。



全市一斉の午前8時30分のサイレンを合図に機関ごとに活動が開始され、我々は9時30分から約1時間、週刊誌・新聞紙・ボール紙・ネクタイ・ナイロン紐・傘・ビニール袋・三角巾などを用意し、模擬患者20人に対する応急処置を3回実施した。(報告 鶴舞・丸谷康男)

合同準備会

愛知県・豊田市、名古屋市北区、岡崎市、名古屋市天白区での訓練に先立ち、8月29日(水)、愛整会館2階会議室にそれぞれの担当の会員22名が集まり、担架搬送訓練・三角巾・新聞・雑誌・レジ袋などを利用して応急救護処置の練習などを行なった。

訓練を継続させる工夫とは

第23回機能訓練指導員実務研修会
第6回フォローアップ講習会



8月26日(日)、午前10時から11時40分まで、会員263名と会員外柔道整復師8名の合わせて271名が参加して、第23回機能訓練指導員実務研修会(第6回介護予防機能訓練指導員フォローアップ講習会)が愛整会館3階講堂で開催された。今回より実務研修会とフォローアップ講習会が一本化された。

今回は、理学療法士・鍼灸師・産業カウンセラーであり、地域医療・健康・福祉に貢献することを理念に浜松市を拠点として機能訓練型デイ

サービスを経営されている柴田泰志先生をお招きし、「二次予防対象者と向き合う機能訓練と指導方法」と題し、個人のプログラムに沿った運動指導方法によるリハビリ強化型のデイサービスに特化した機能回復のスペシャリスト・二次予防事業者としての積極的な取り組みとその手法をご講演頂いた。

柴田先生は、大切なことは二次予防対象者に機能訓練(運動)を継続させることであり、そのためには意欲低下を起こさず、かつ効果的な訓練方法を考えることが重要であると強調された。

効果的に訓練を継続させる取組みとして、既成概念に囚われない自由な演出・徹底したスタッフ教育・きめ細かいリスク管理の3項目を挙げそれぞれについて詳述された。

柴田先生は最後に、質の高いサービスによる安心と信頼が運動継続のカギになる、新しいトレーニング方法の開発や工夫をすることも大切であると締めくくられた。